

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市賤機都市山村交流センター		
課 名	中山間地振興課		
指定管理者名	賤機都市山村交流センター運営委員会		
指定期間	令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和8年6月4日（木）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 佐藤 暢久（環境局 森林経営統括監） ②委 員 安本 暢子（北部生涯学習センター長） ③委 員 原田 収司（藁科都市山村交流センター館長） ④委 員 望月 大輔（井川支所長） ⑤委 員 岡本 嘉章（中山間地振興課長）		
評価点 (各委員平均点)	91.4点	評価	Ⓐ・B・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	評価委員会では、非常に良好な施設運営状況であるとしてA評価となった。これは、施設管理や経理等を適切に行っていることに加え、オクシズの地域資源を活かした講座や交流促進を目的としたイベントを積極的行っており、これにより利用者が毎年増加していること、また同時に高い利用者満足度を得ていることが高く評価されたことによるものである。 施設の設置目的を十分に理解し、中山間地域と市街地との交流に寄与する様々な取組を行いながら、着実に利用者を増やしてきているということは、施設に求められる役割を高いレベルで果たしていると言える。 これまでの施設運営で培ったノウハウと地域との信頼関係を活かし、引き続きオクシズの魅力を広く発信できる施設として、良好な運営を期待したい。		

総合評価結果総括表

施設 の 名 称 [静岡市賤機都市山村交流センター] 課名 [中山間地振興課]
 指定管理者名 [賤機都市山村交流センター運営委員会]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認 【配点45点】						
(ア) 事業計画書等に示された事業が予定どおり、円滑に実施された。	18	18	19	18	18	18.2
(イ) 施設の管理状況は適当である。	9	9	10	9	9	9.2
(ウ) 適正な能力を持った職員が適正な人数配置された。	5	5	5	5	5	5
(エ) 経理は適正である。	8	9	9	9	9	8.8
小 計	40	41	43	41	41	41.2
2 指定管理者の創意工夫 【配点20点】						
(ア) 指定管理者の技術・経験を活かした事業が実施された。	19	17	19	18	18	18.2
小 計	19	17	19	18	18	18.2
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 利用者の満足度調査において高い評価を受けた。	9	9	9	9	9	9
(イ) 利用者の苦情等に適切に対応した。	5	5	5	5	5	5
小 計	14	14	14	14	14	14
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) 交流人口の増加が図れた。	9	9	9	9	9	9
(イ)) 地域振興施設としての役割が担えた。	9	9	9	9	9	9
小 計	18	18	18	18	18	18
合 計	91	90	94	91	91	91.4

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】
・限られた経費の中で、清掃や草刈りなど、職員でできることを積極的に行い、施設の管理に取り組んでいる。 ・体験活動等により産地訪問へとつながる取組は、施設の目的を十分に果たす好事例である。 ・施設の目的に合ったターゲットを設定するとともに、利用者のニーズに合った講座・イベントを行うことで、利用者の満足度を高めている。 ・地域住民だけでなく都市の住民が中山間地へ足を向けるようなイベント等が効果的に実施されている。 ・全体的に施設の目的を意識した取組みが行われており、集客も十分で、施設の役割が果たせている。
【B評価委員】
・事業計画に沿った事業が着実に実施されている。 ・講師の後任が育てられるとなお良い。 ・日頃から適切な整備が行われ、利用者の満足度が高い。 ・地域資源を積極的に活用した体験型の講座や特色ある事業を推進している。合わせて地域ならではの人材を活用することで、よりオクシズの魅力を知っていただける事業を展開して評価できる。 ・利用者が令和2年度以降着実に増えている。施設管理を適切に行い、皆で知恵を出し合い事業を実施しているためと考える。 ・地域の方々の協力や連携により、都市住民と中山間地域住民の交流促進が図られている。
【C評価委員】
・事業計画書に則った取組が来場者数の着実な増加につながっている。 ・講師やマルシェ出展者の選定など、これまで培ってきた地元との信頼関係を存分に活かしている。 ・施設目的という制約はあるものの、マルシェの開催に加え、物販等の可能性を追求している点を高く評価する。 ・地域住民や商店などから講師を迎え、地域の食材を活用しての調理教室を開催し、受講者にオクシズ来訪を動機付けるにとどまらず、実際にオクシズに足を運びリピーター化するようなアウトリーチ活動にも取り組んでいる。これらは、施設の設置目的を深く理解していることの表れであり、またこれまで培ってきた地域との信頼関係によるものと高く評価できる。
【D評価委員】
・利用者数の増加に向けた工夫が見られる。収支も適正である。 ・オクシズならではの講座が多く充実している。 ・満足度は97%以上であり、また苦情等にも対応できている。 ・利用者人数が毎年増加している。特にイベント回数の増加やオクシズ食材を活かした新規講座の実施など、積極的にオクシズについて情報発信している。 ・収支状況も踏まえ、運営が適正に処理されている。
【E評価委員】
・事業計画は予定どおりにすすめている。事故なく運営し、施設管理に対する苦情はない。経理状況も問題ない。 ・自主事業や講座等に当たってはオクシズを意識するとともに、設置目的を理解して各種事業を工夫の上実施している。 ・来館者の増加を図る事業が展開されていた。講座等に当たっては地域の資源を活用し、施

設の設置目的が果たされている。

- ・全体的に良好な施設管理ができている。アンケート結果で利用者満足度が高いことから、丁寧に接客している様子が見える。

設置目的を十分に理解するとともに施設の重要性を認識しており、地域のみならずオクシズ振興に寄与している。

評価委員会としての意見

・事業計画に沿った事業が着実に実施されているとともに、限られた経費の中でも、適切な施設運営がなされている。

・地域の食材を使った調理教室のような体験型の講座や特色ある事業、実際にオクシズに足を運ぶ動機づけとなるような活動など、オクシズの魅力を知ることのできる取組を行っている。

・利用者満足度が高い。これは、利用者対応が丁寧であることや日頃から適切な整備が行われていること、またターゲットを設定して利用者のニーズに合った講座やイベントを実施していることなどによるものである。

・施設の設置目的を深く理解した上で、地域と協力・連携しながら様々な取組を行っており、着実に利用者を増やしている。都市山村交流センターとしての役割を果たすとともに、オクシズ振興に寄与していると言える。